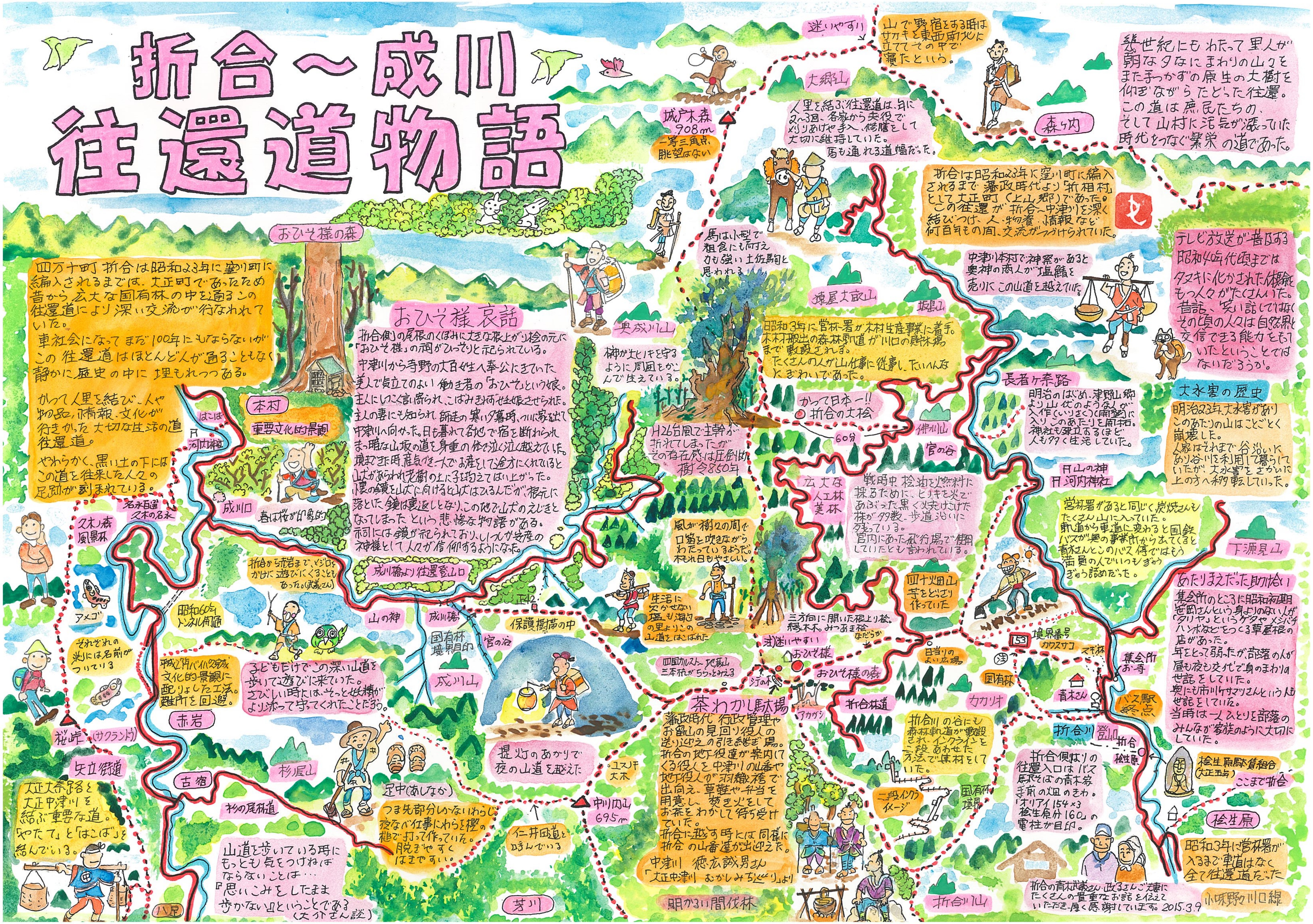
折合～成川
往還道物語



四万十町折合は昭和23年に窪川町に編入されるまでは、大正町であったため昔から広大な国有林の中を通るこの往還道により深い交流が行なわれていた。

車社会になってまだ100年にもならないがこの往還道はほとんど人が通ることもなく静かに歴史の中に埋もれつつある。

かつて人里を結び、人や物品、情報、文化が行きかった大切な生活の道往還道。

やわらかく、黒い土の下にはこの道を往来した人々の足跡が刻まれている。

おひそ様哀話

折合側の尾根のくぼみに大きな根上がり桧の元に「おひそ様」の祠がひっそりと祀られている。

中津川から寺野の大百姓へ奉公にきていた美人で気立てのよい働き者の「おひそ」という娘。主人にしつこく言い寄られ、こばみきれず妊娠させられた。主人の妻にも知られ、師走の寒い夕暮時、ついに家を出て中津川へ向かった。日も暮れて各地で宿を断わられまっ暗な山坂の道を身重の体で泣く泣く越えていった。境まできた時、産気づき一人でお産をして途方にくれていると山犬があらわれ老樹の上に子を抱えてはい上がった。懐の鏡を山犬に向けると山犬はひるんだが、根元に落とした鏡は裏返しとなり、この地で山犬のえじきとなってしまったという悲惨な物語がある。祠には鏡が祀られており、いつしか安産の神様として人々が信仰するようになった。

幾世紀にもわたって里人が朝な夕なにまわりの山々をまた手つかずの原生の大樹を仰ぎながらたどった往還。この道は庶民たちの、そして山村に活気が漲っていた時代をつなぐ繁栄の道であった。

山で野宿をする時はサカキを東西南北に立ててその中で寝たという。

人里を結ぶ往還道は、年に2～3回、各家から夫役で刈りあけや手入、修繕をして大切に維持していた。馬も通れる道幅だった。

馬は小型で粗食にも耐え力も強い土佐駒と思われる

折合は昭和23年に窪川町に編入されるまで藩政時代より「折相村」として大正町（上山郷）であった。この往還が折合～中津川を深く結びつけ、人・物資・情報など何百年もの間、交流がつづけられていた。

中津川本村で神祭があると奥神の商人が塩鯖を売りにこの山道を越えていた。

テレビ放送が普及する昭和40年代頃まではタヌキに化かされた体験をもつ人々がたくさんいた。昔話、笑い話ではなくその頃の人々は自然界と交信できる能力をもっていたということではないだろうか。

大水害の歴史

明治23年、大水害がありこのあたりの山はことごとく崩壊した。人家はそれまで谷沿いにあり谷川を利用して暮らしていたが、大水害をさかいに上の方へ移転していった。

長者ヶ奈路

明治のはじめ、津野山郷より山伏のような人が入作（いりさく）（開墾）に入りこのあたりを開拓。神社も建立するほど人も多く生活していた。

昭和3年に営林署が木材生産事業に着手。木材搬出の森林軌道が川口の貯木場まで敷設される。たくさんの人が山仕事に従事し、たいへんなにぎわいであった。

榊が大ヒノキを守るように周囲をかこんで生えている。

H26台風で主幹が折れてしまったがその存在感は圧倒的 樹令850年

戦時中、桧油を燃料に採るために、ヒノキを炎であぶった黒く焼けこげた株が多数、歩道沿いに残っている。宮内にあった乾溜場で使用していたとも言われている。

風が樹々の間で口笛を吹きながらわたっているようだ。木もれ日もやさしい。

生活に欠かせない塩も海辺の里よりこの山道をはこばれた

三方向に開いた根上り桧。縁起木。みつあき桧

四十畑山 芋をどっさり作っていた

営林署があると同じく炭焼さんもたくさん山に入っていた。軌道から車道に変わると国鉄バスが奥の事業所からおりてくると青木さんとこのバス停ではもう満員の人でいつもぎゅうぎゅう詰めだった。

あたりまえだった助け合い

集会所のところに昭和初期笹岡さんという身よりのない人が「タリヤ」というゲタやメシバチハンボなどをつくる草屋根の店があった。年をとって弱ったが、部落の人が昼も夜も交代で身のまわりの世話をしていた。奥にも市川ケサマツさんという人も世話をしていた。当時は一人ひとりを部落のみんなが家族のように大切にしていた。

折合川の谷にも森林軌道が敷設され、インクラインを二段あわせた方法で集材をしていた。

折合側よりの往還入口はバス駅そばの青木家手前の畑のきわ。「オリアイ154×3 桧生原分160」の電柱が目印。

昭和3年に営林署が入るまで車道はなく全て往還道だった

茶わかし駄場

藩政時代 行政管理やお留山の見回り役人の送り迎えの引き継ぎ場。折合の地下役達が案内してくる役人を中津川の山番や地下役人が羽織袴で出向え、草鞋や弁当を用意し、焚き火をしてお茶をわかして待ち受けていた。折合に越す時には同様に折合の山番達が出迎えた。

中津川 徳広誠男さん
「大正中津川 むかしみちめぐり」より

提灯のあかりで夜の山道を越えた

足中（あしなか）

つま先部分しかないわらじ 夜なべ仕事にわらを樫の槌で打って作っていた。脱ぎやすくはきやすい。

仁井田道と呼んでいる

子どもだけでこの深い山道を歩いて遊びに来ていた。さびしい時には、そっと妖精がより添って守ってくれたことだろう。

折合から赤岩まで、メジロをかけに遊びにくることもあった。（武義さん）

平成2年バイパス完成 文化的景観に配りょした工法。難所を回避。

昭和60年トンネル開通

それぞれの渕には名前がついている

大正大奈路と大正中津川を結ぶ重要な道。「やたて」と「はこば」を結んでいる。

山道を歩いている時にもっとも気をつけねばならないことは…
『思いこみをしたまま歩かない』ということである
（大介さん談）

折合の青木武義さん・政子さんご夫妻にたくさんの貴重なお話を伝えていただき厚く感謝しています。2015.3.9

おひそ様の森
本村
重要文化的景観
はこば
河内神社
成川口
春は桜が印象的
名水百選 久木の名水
久木ノ森 風景林
アメゴ
桜峠（サクラントウ）
赤岩
矢立街道
古宿
杉ノ尾山
杉の尾林道
八足
成川橋より往還登山口
山の神
成川橋
国有林境界印
官の谷
成川山
正42
保護樹帯の中
ユスノ木 大木
中川内山 695m
芳川
明かるい間伐林
四国カルスト～地蔵山 三本杭がちらっとみえる
注 迷いやすい
おひそ様
なだらか
汀の木
おひそ様の森
アカガシ
折合林道
日当りのよい広場
国有林
カカリオ
二段インクラ イメージ
国有林 境界
折合川山
境界番号 153
カウスサコ
スギ林
注
集会所 お寺
青木さん
バス駅終点
折合川 登山
折合
桧生原
桧生原駄賃組合（大正五年）
ここまで折合
桧生原
小味野々川口線
下源見山
山の神
河内神社
長者ヶ奈路
佛川山
官の谷
60分
かつて日本一!! 折合の大桧
広大な人工林美林
坂島山
猿屋大畝山
奥成川山
城戸木森 908m
一等三角点、眺望はない
大郷山
迷いやすい
森ヶ内